



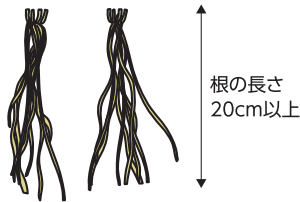
グリーンアスパラガスは、疲労回復を早めるアスパラギン酸と高血圧を予防するルチンを多く含みます。

一度植えると7〜8年同じ畑で収穫できるので、今から準備をしましょう。太い若茎が多く取れる「シャワー」（タキイ種苗）や「ウエルカム」（サカタのタネ）などの品種がオススメです。

「種から育てる場合」

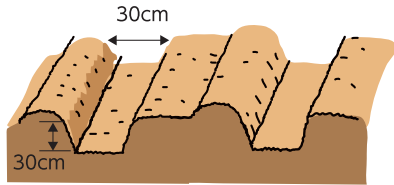
苗から育てる方法が簡単ですが、種から育てる場合は、3〜4月に

図1 購入苗



根の長さ
20cm以上

図2 溝切り



畝幅120cm

図3 施肥

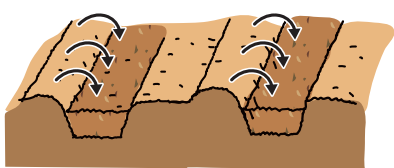
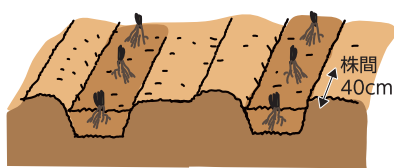


図4 植え付け



土作りを済ませた育苗床に条間・株間とも20cm程度空け、1カ所につき2〜3粒種をまきます。数が少ない場合は、ポット栽培でもかまいません。草丈10cm程度のときに間引きし、1本立てにします。肥料は、N・P・K比が各10%の化成肥料（固形30号など）を1㎡あたり50gやると良いでしょう。この状態で翌年2月ごろまで、株を育てて苗にします。必要に応じて1〜2回追肥しましょう。

「苗から育てる場合」

苗は、根の長さが20cm以上のもので選びます（図1）。植え付けの1週間前までに畑へ苦土石灰を1㎡あたり200gまいて耕しておきます。

幅120cmの畝に、深さ30cm、幅30cm程度の溝を掘り（図2）、溝1mにつき堆肥2kgと化成肥料

100gを与えます（図3）。ここに株間を40cm程度空けて苗を植え付けます（図4）。1年目は収穫せずに根株を育て、翌年から収穫を始めましょう。

100gを与えます（図3）。ここへ株間を40cm程度空けて苗を植え付けます（図4）。1年目は収穫せずに根株を育て、翌年から収穫を始めましょう。

「管理と病害虫防除」

葉が茂ると倒れやすくなるため、株の両側にひもを張ります。

生育が盛んな6月と芽が膨らむ2〜3月には、畝1mにつき化成肥料50gを畝の肩に追肥します。アスパラガスの大敵は、梅雨と

秋雨の時期に発生する茎枯病です。茎と枝に紡錘型の病斑を生じ、進行すると茎が枯れてしまします。「Zボルドー」や「ダコニール1000」などで防除しましょう。

また、地上部が枯れる晩秋に、地際から刈り取った茎を焼却することも予防法の一つです。

「収穫」
茎が30cm程度に伸びたら、先端が開く前に地際から切り取ります。早春の1カ月間初物を楽しんだ後は立茎栽培といって、一時収穫を中断し、1株あたり数本の茎を成長させます。夏から秋までは、この数本の茎から次々に出る若茎を順次収穫します。

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

購買課からのお知らせ

春夏野菜用

肥料・農薬 申込受付中

間もなく暦の上では冬が終わりです。春夏に向けて、畑の準備はお済みでしょうか？

購買課では、春夏野菜用肥料と農薬の申込みを受付しています。

1カ月間限定の特別価格（2月28日まで）ですので、この機会にぜひお買い求めください。

◆オススメ肥料を一部ご紹介!!

●天然由来の「油粕」

ナタネの搾りかすを集めた昔ながらの肥料です。植物の茎や葉の成長に欠かせない窒素を含みます。

●万能肥料「固形30号プラス」

肥料3大要素である窒素（N）・リン酸（P）・カリウム（K）を各10%ずつ含むほか、植物を微生物に分解させた天然腐植も入っており、様々な野菜に使えます。

折込みの申込書または営農センターや支店で申込書をお受け取りいただき、ご注文ください。商品は2月中旬から配送いたします。

今月の農家さん

前向きな努力は
次の笑顔に

野洲市高木
田中 清蔵さん (55才)



野洲市高木で、特産品の「近江のキャベツ」を育てている田中さん。

専業農家になった17年前は、米づくりが中心でしたが、「育てる楽しさ」を一年中味わいたいと、キャベツや黒豆の栽培を始めました。

最初は、雑草や湿気対策などで失敗したこともありましたが、経験を重ねた今は自分なりのコツをつかみ、少しずつ作付面積を増やしています。

田中さんは、農業の魅力を「自由と挑戦」だと

言います。自分の思いや発想を栽培に取り入れ、その結果が収量や味に出るのが楽しいそうです。

だからこそ、田中さんはインターネットでの情報収集やキャベツ畑の見回りなど、より農業を楽しむための準備に余念がありません。

最後に田中さんはこれから農業を始める人に向けて「農業はしんどい事もありますが、楽しむことが大切です。前向きに努力すれば人や情報が自然と集まり、次の笑顔に繋がります」とエールを送りました。

営農情報

品種	施用時期 (目安)	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目	実肥 (開花期)
		①②：2月中旬 ③：2月下旬	共通：3月上旬	共通：4月下旬
①農林 61 号	NK-C20：20kg 高度化成 444：30kg 麦笑：40～50kg	NK-C20：10kg 高度化成 444：20kg	NK-C20：20kg 高度化成 444：20kg 尿素：10kg	
②シロガネ	NK-C20：20kg 高度化成 444：30kg 麦笑：40～50kg	NK-C20：15kg 高度化成 444：20kg	NK-C20：20kg 高度化成 444：20kg 尿素：10kg	
③ミナミノカオリ	尿素：10kg	尿素：10kg	尿素：10kg	

※ 10aあたりの施用量

◆小麦の穂肥について

2月中旬ごろ、麦は幼穂形成期に入り穂肥が必要になります。

昨年産小麦は、天気恵まれて旺盛に生育したため、予想より早く肥切れをおこす例もありました。今年も暖冬と予想されているため注意が必要です。

肥切れが長く続き、葉色が極端に薄くなると、なかなか元の色に戻りにくく、成長に影響します。そうなる前に穂肥を与えましょう。ただし、土壌が過湿だと穂肥の効果小さくなるため、しっかりと排水対策を行います。

また、小麦は穂ばらみ期以降に行う実肥も重要です。「麦パンチ」等の基肥一発肥料は、この時期の窒素溶出量が少ないため、容積重やタンパク質含量を向上させるためには実肥の施用が必要です。

◆道路をきれいに使いましょう

圃場での作業後、トラクターなどについた泥で道路を汚していませんか？泥はスコップなどを使い圃場内で落としましょう。

それでも道路に落ちてしまった泥は速やかに取り除き、通行者の安全に配慮しましょう。